

60. URBAN FORUM ～駅前市場再考計画～

04168032 杉原一馬
指導教員 市川尚紀 講師

市場 広場 集合住宅 駅前

1.設計主旨

市場とは、人と人が相互に価値を認めたモノを交換することにより、共同体であることを確認し、共生をする場であると同時に、人間生活という初源的な営みを支える場である。そこに近代の商業空間にはない、人々の日常生活と密接した活気や賑わいなどが生まれる高い資質を秘めているのではないかと考えた。

しかし、駅前南口は、老朽化した建物により未利用地が多数発生し、市場もかつての賑わいを失いつつある。この駅前市場の再生として、特に老朽化の激しい店舗を対象とし、市場の店舗と住宅を混成させた集合住宅を計画した。市場への物資の搬出入の経路や、外部から来る人々の動線をそのまま建物の内部へ引き込むことで、市場の活気や賑わいが、外部から来る人々と密接に結びつく空間を目指した。さらに、建物の中央を巨大な広場とすることで、様々なものが混じり合い、市場をさらに活気づけるのではないかと考えた。



図 2 計画地配置図

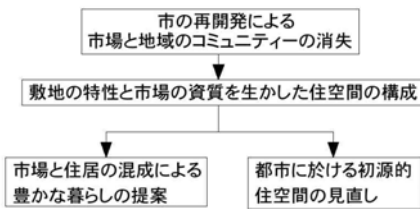


図 1 コンセプトダイアグラム

2.計画地の概要

広島駅南口周辺地区を計画対象地とする。本計画地は、市の広域交通結節点という重要な位置にありながら、老朽家屋、未利用地が多数密集しており、現在、市による再開発が計画されている。

社会環境

計画地は、駅前市場を中心に、市民の台所として人々の生活を支え、広島の商業空間の要所として戦後の風景を残している。また駅前市場は、広島のまちに原爆が投下され、廃墟と化したのが、そのわずか4ヶ月後には、自然発生的に店が立ち並び、戦後から市民の生活を支えてきた、広島のまちの起源とされる場所でありヒロシマの再生を象徴する空間である。

3.計画内容

3.1 駅前市場の再生

(1) 老朽店舗の立て替え

駅前には、現在約 80 店舗以上の市場と商店が軒を連ねている。しかし、現状としてその一部は老朽化し、錆び付いて、未利用地として取り残されたまま放置されている。そこで、市場の中でも特に老朽化の激しい店舗を対象に、立て替えを計画し、駅前市場を中心として、駅周辺に活性化と賑わいを取り戻すことを期待する。

(2) 既存の市場の保存

老朽化の激しい一部の店舗以外は、現状のまま残し、小さな街路などもそのまま残すことで、新たに計画する空間とのつながりを生む。

(3) 立地の有効活用

駅前には、広島県内でも人や車の交通量が多い場所であり、それらの動線を建物内部に通過させることで、市場内への物資の流入や人の流れを呼び込み、市場へ活気を呼び込む。また、付近には留学生会館などの施設もあり、留学生が頻繁に市場を訪れるなど、地域を巻き込んだイベントなどを行うことで、市場もより活気づくと考えられる。

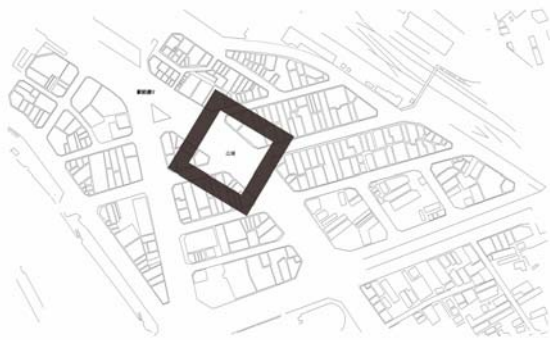


図 3 配置計画

3.2 市場と地域の交流の場となる広場

(1) 交流の場となる広場

市場は駅前通りによって、東西に大きく分断されている。建物は 2 つの市場をまたぐの字型のプランとし、中央のヴォイドと既存の街路を含めた広場を形成する。広場は市場の買い物客の為だけでなく、外部から通過していく人々の為の空間として、市場と地域をつなぐ交流の場となる。また、夏と秋に行われる祭事の場としても使われ、多岐にわたって市場と地域住民の交流の場となる。

(2) 物資の流入を促す駅前道路

既存の駅前道路を建物内部に通過させることで、従来のように、市場への物資の搬入を効率的に行う。

3.3 誰でも通り抜けられる道をもつ住空間

(1) 市場と広場

各住戸は表側を居室（1 階のみ店舗）とし、裏側を光庭とする。それらを誰でも通り抜けられる通り庭でつなぎ、住戸 (private) と広場 (public) を緩やかにつなぐ。また、住戸の 1 階を主に外部に開いた店舗空間とし、地下と 2 階にプライバシー度の高い居室を配した。

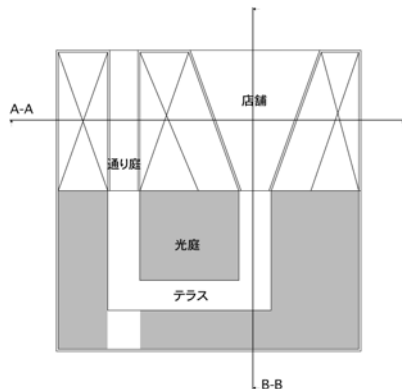


図 4 1 階住戸平面図

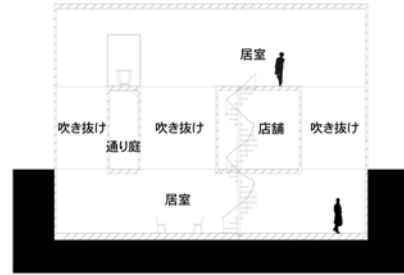


図 5 A-A 住戸断面図

(2) 光を落としし込む光庭

1 階の店舗の裏側を、光を落としし込む為の庭とし、住戸の内部空間に自然採光を取り込む。

また天候の良い日には、市場で買ったものを、調理し食べることができるオープンスペースとしても活用できる。

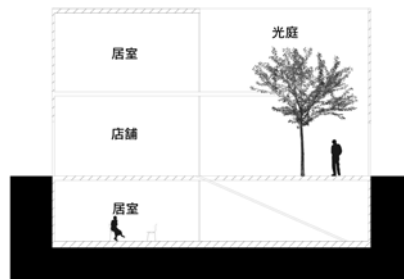


図 6 B-B 住戸断面図

4. 総括

本計画は広島駅南口を計画対象地とし、都市に於ける住空間の見直しとして、敷地の特性と市場の空間構成を活用した集合住宅を計画する。駅前の道路や街路を建物内部に通すことによって、市場と地域住民の交流の場としての広場になる。さらに市場でのイベントや、地域の祭事になどにも広く活用される。また、既存の通りに面した店舗空間と、その裏側に住空間を配し、通り庭でつなぐことにより、住宅と市場という公私の空間を緩やかにつなぐ空間を設計した。住居と市場という初源的な生活空間が密接につながり、衰退する駅前に活気や賑わいを生み出すことを期待する。

しかし、本計画で想定した地域祭事などへの活用は、その活動主体の意向や地域住民への配慮なども考慮しなければならないことを付記する。

建築概要

所在地：広島県広島市荒神町 主要用途：集合住宅 構造・規模：RC 造、地下 1 階 地上 2 階建て 敷地面積：8100 m² 建築面積：5400 m² 住戸数：15 戸 市場店舗数：15 戸